

寒き日は今は遙けきシベリアの辛きことども瞼に浮かぶ
兵として六年苦楽を共にせる戦友の訃報に暫し暗然

面影が辞世の歌に顕ちにけり知覧の町に雨降りしきる

昨夜また抑留の日の夢に顕つ生ある限りつきまとうらん

抑留の国の元首の訪ね来て苦難の日々のまた甦る

強固なること鉄のごとしと思ひしに変転はげし抑留の国

四年余の抑留の憶いよぎる宵テレビニュースは政変伝う

残留孤児帰国の度に胸疼く縫れる袖を払いし兵の日

連邦の終焉を聞く俘虜の日の憶いまざまざ四十五年経て

戦友を数多異国にとむらいし胸の疼きのいつ消ゆるらん

シベリアに白樺の樹液すすりたる口に広がる甘さ忘れじ

君はいつも誰か故郷を想わざる歌いておりき戦死したりき

シベリアに果てて還らぬ戦友の面影浮かぶ雪の降る日は

拍手を打てば面影顕ちてくる九段の杜はさくら欄漫

抑留の稿書きおれば亡き戦友の面影顕ちて暫し筆止む

終戦の日の廻り来て眼裏に修羅場浮かびて身の毛よだちぬ

シベリアの炭坑労働顕ちて来る土肥金山の坑内歩めば

黒パンをくわいしままに息絶えしラーゲルの戦友の貌を忘

れじ

満州の赤き夕日の思い出すあきつ群れ飛ぶ夕映えに立つ

久に会い話題シベリアに及ぶとき友の眼は涙をたたう

戦友と久々に逢いシベリアの辛きことども涙で語る

追憶の糸をたぐればシベリアの抑留の日に辿りつくなり

五十余年過ぎて戦の夢を見る弊れし戦友の面輪鮮烈

シベリアに戦友を雪もて葬りし心の傷の今も疼きぬ

戦友が匿し持ちたる一錠がラーゲルに病む我を救えり

我が友は傘寿過ぎてても矍鑠と戦友会に終始饒舌

また会わんと云いて別れし戦友の計報届きぬ三月経ずして

六年の間苦楽を共にせし戦友の計を聞く桜盛りに

五十年過ぎてても戦の傷深し戦野を駆けし夢にうなさる

喜寿迎う我の見る夢の大方は戦野くぐりし遠き日の夢

戦友の歌をうたいて幕となる戦友会は十指を割れり

戦野にて死なば共にと誓いたる亡友に会わんと九段に詣ず

草のみを五日も食みし遙かなる俘虜の日の頭つ食余る世に

車窓より身体乗り出し手を振りて征きたる友は遂に還なず

ロシア訪えし戦友の土産の黒パンを食べれば浮かぶ抑留の

日々

シベリアの苦難の日々の頭ちて来る抑留展を巡りておれば

戦友会うたげの果は戦友の歌を唄いて幕を閉じたり

転戦のかの山河が目浮かぶ六十年も過ぎし今でも

復員列車に富士を仰ぎて共に哭きし戦友今は亡く寂しさつ

のる

久に会う戦友との語り尽くるなし話題はシベリア辛きに及ぶ

一人だに敵を殺さぬ兵たりき氣象兵たる私の傍倅

香月展シベリアシリーズ見ておれば涙流れ来抑留偲び

抑留の我にロシア囚人やさしけり父母ありや幼児ありやと

五十八年抑留の戦友に香手向く墓参果たして心安らぐ